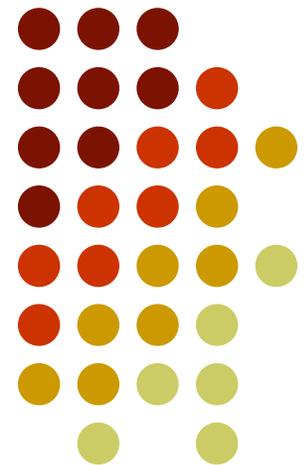


オーストラリア視察報告 (後半)

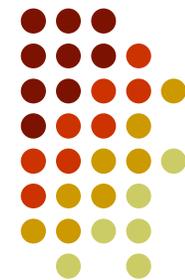
東京大学情報基盤センター
小山憲司





報告内容

- 今回の海外視察の目的
- 視察内容
 - APSRとオーストラリアにおける機関リポジトリ
 - Open Repositories 2006
 - その他
- まとめ



今回の海外視察の目的

- Open Repositories 2006への参加
 - オーストラリアをはじめとする海外での機関リポジトリの取り組みについての調査
 - Dspaceユーザ会への参加
- オーストラリアの各大学における機関リポジトリの取り組みについての訪問調査
- 国内のCSIプロジェクト参加大学との情報交換



視察内容(報告)

- APSRとオーストラリアにおける機関リポジトリ
- OR2006
- その他
 - クイーンズランド大学(QU)
 - オーストラリア国立大学(ANU)

APSRとオーストラリアにおける機 関リポジトリ



- APSRとは
- APSRの活動内容



APSRとは

- Australian Partnership for Sustainable Repositories (<http://www.apsr.edu.au/>)
- オーストラリア政府からの財政支援(280万AUD)による3年間(2004から2006年)の時限プロジェクト

APSRとは



- 目的:
 - 機関リポジトリなど、デジタル技術を利用して、学術コンテンツへのアクセス、配布・提供、保存などについて研究・実践すること。
 - 上記で得られた専門的知識・技術 (expertise) を広く還元すること。

APSRとは



- 組織：
 - 事務局はANUに設置、事務局長、総務担当、企画渉外担当の3名で運営
 - パートナー
 - ANU
 - オーストラリア国立図書館(NLA)
 - UQ
 - シドニー大学
 - apac(Australian Partnership for Advanced Computing)



APSRの活動内容

- 4つのプログラム
 - Digital Continuity and Sustainability
 - International Linkages Program
 - National Services Program (National Outreach)
 - イベントの開催
 - この1つとして、今回のOR2006が開催された
 - ワークショップの開催
 - Practices & Testbed
 - ソフトウェアの開発、運用実践など



Practices & Testbed

- ANU
 - DSpaceに係るソフトウェアの開発
 - コンテンツの自動登録ソフトの開発
 - word文書をwebインタフェースから入力すると、自動的にメタデータを切り出し、DSpaceに取り込んでくれる
 - Apache Cocoonを利用したwebインタフェースの開発
- UQ
 - Fedoraを利用した機関リポジトリの構築



Practices & Testbed

- シドニー大学
 - デジタル環境下における学術研究支援のためのミドルウェアの開発
 - 機関リポジトリを管理運営するためのガイドライン・チェックリストの作成
- NAL
 - デジタル資料の保存 (preservation) についての研究
 - どのような種類のデジタル資料を持っているかの国内調査
 - デジタル資料のobsolescenceの問題など

Open Repositories 2006



- 日程：
 - 2006年1月31日～2月3日（4日間）
- 参加者：
 - 約160名
 - オーストラリアをはじめ、アメリカ、イギリス、タンザニア、ウガンダ、インド、日本の各国



Open Repositories 2006

- フォーラム：
 - The Well-integrated Repository
- シンポジウム：
 - Managing Openness in Digital Repositories
- ユーザ会：
 - DSpace
 - EPrints
 - Fedora

フォーラム: The Well-integrated Repository



- 学内の他サービスとの連携
 - E-learningシステム、学務システムなど
- 学外のサービスとの連携
- 上記を実現するためのフレームワークの開発
 - e-Framework: レファレンスモデルの開発
- デジタル・オブジェクトの管理・活用
- セキュリティおよび認証

シンポジウム: Managing Openness in Digital Repositories



- Open sourceについて
 - リポジトリを実現するためのソフトウェアの側面
- コンテンツの取り扱いについて
 - オープン化
 - セキュリティおよび認証



Dspaceユーザ会

- Dspaceに関する状況
 - これまでの開発経緯
 - 今後のロードマップ
 - 開発の焦点
 - DSpace開発の体制
 - DSpace Federation、communityのあり方について
- 各大学・機関における取り組み



OR2006におけるキーワード

- 研究成果の公開、発信、共有
 - Dissemination、visibility
 - Open access
 - 重複研究の回避
- 研究成果の保存
 - Preservation、curation
- 研究成果の永続性の確保
 - Sustainability
 - Persistent URL



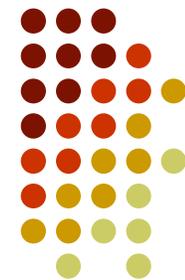
OR2006におけるキーワード

- リポジトリ構築のための協力、協調
 - Collaboration、liaison
- オープンアクセスと利用者認証（アクセス制限）
- コンテンツを見せるということ
 - コレクションvs.Google Scholar
- リポジトリ担当者の教育・訓練
- 時間をかけて、じっくりと



その他

- クイーンズランド大学
- オーストラリア国立大学



クイーンズランド大学 (QU)

- 1909年創立
- 学生数: 38,139名 (うち、大学院生10,313名)
- 教職員 (FTE): 5,081名 (うち、アカデミック2,078名)
- 7学部、4研究所

QUにおける機関リポジトリの取り組み



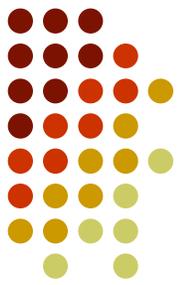
- ePrints@UQを運用(2003年より)
 - <http://eprint.uq.edu.au/>
 - EPrintsをベースとしたリポジトリ
- eScholarshipUQの立ち上げ・テスト運用
(APSRのプログラムの一環)
 - <http://www.library.uq.edu.au/escholarship/>
 - Fedoraをベースとしたリポジトリ
 - データ・フォーマット、データ・ストレージ、運用方針など、sustainabilityを実現するためのシステムの開発

QUにおける機関リポジトリの取り組み



- UQ eSpaceへの移行
 - ePrints@UQ、eTheses、ePressのほか、学内のさまざまな学術情報を電子化・保存して、統合し、一括して検索できるような仕組みとする。
- UQ Libraryには10人のプログラマがいる。そのうち2人がePrints@UQの担当者。

ePrints@UQの運用について(知見等)



- 主題による管理が可能であったため、EPrintsを選択した。
- コンテンツの登録は、self-archiveおよび代理登録の両方を採用している。
 - 登録の義務化はしたいが、今のところ方策なし(副学長からの呼びかけを試みるつもり)

ePrints@UQの運用について(知見等)

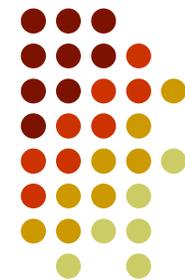


- まずは500件の登録を目指すこと。経験によると、それが呼び水になってIRは軌道に乗る。
- 研究者は、リポジトリへの登録は乗り気ではない。が、実際に登録して、その有効性を認識すると、より多くのコンテンツを登録してくれるようになる。

ePrints@UQの運用について(知見等)



- リポジトリの広報の一環として、ランキング発表（アクセス数、ダウンロード数など）やパブリシティ製作（絵葉書、ペン、マグネットなど）を行っている。
- ePrints@UQでは卒業後も登録可能。自分の研究業績のアーカイブとしても利用可能。
 - cf.ポートフォリオとしての利用



オーストラリア国立大学(ANU)

- 1946年創立
- オーストラリアで唯一の国立大学であり、研究志向大学である
 - 473millionAUDのうち、85%が研究用
- 学生数：約8,500名（うち大学院生1,100名）
- 教職員（FTE）：約1,250名（うち研究職750名）
- 7学部

Division of Information, ANU



- 図書館をはじめ、学内の情報に関する業務は、情報部 (Division of Information、DOI) が管轄する。
- DOIは、3つの部署からなる。
 - Corporate Information Services
 - Scholarly Information Services (University Library)
 - Scholarly Technology Services

ANUにおける機関リポジトリの取り組み



- EPrints (2001年から)
 - <http://eprints.anu.edu.au/>
- Demetrius (2005年8月から)
 - <http://sts.anu.edu.au/demetrius/>
 - Dspaceをベースにした機関リポジトリ
 - APSRプログラムの一環
 - 学術研究論文のほか、データセット、画像、音声などさまざまな情報を保存、公開

機関リポジトリの運用について(知見等)

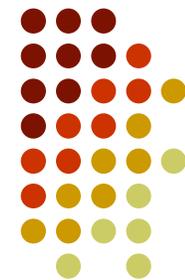


- 元々図書館員であった担当者がEprintsを立ち上げた
 - 登録についても研究者のボランタリーな形から始める
 - 図書館外におけるコンテンツの獲得活動の実施
- 現在は、大学が保持しているさまざまな学術情報、研究成果を広く提供し、またそれらを後世に残すことを前提に、幅広いコンテンツが登録の対象となっている。
 - この方針は、大学の上層部で決定された。

機関リポジトリの運用について(知見等)



- 学位論文の電子版の提供は、個々の学生に委ねられている。
 - 毎年300論文ほど提出されているが、登録されているのは、現段階でも130論文ほどのみ。
- 個々の研究者による登録についても、mandatoryはない。
 - 研究者との積極的な関係はあまりない。



まとめ

- 機関リポジトリがターゲットとするコンテンツの解釈は幅広い。
- 機関リポジトリの運用におけるプログラマの存在。
- APSRをはじめとする大学間の横のつながりの重要性。
- 地道にこつこつと。